

今度はこれができる！

第13回（2013年3月10日）向け建設業経理士1級 財務分析出題予想

	第1予想	第2予想	第3予想
第1問	記述問題 ・総合評価法と外部分析 ・指数法の意義	記述問題 ・活動性分析	記述問題 ・健全性分析
第2問	空所補充問題 ・収益性分析	空所補充問題 ・財務分析の手法	空所補充問題 ・資金変動性分析
第3問	推定問題 貸借対照表と損益計算書の一部推定 ・運転資本保有月数 ・現金預金手持月数 ・棚卸資産滞留月数 ・必要運転資金月商倍率	推定問題 貸借対照表と損益計算書の一部推定 ・負債比率 ・金利負担能力 ・固定長期適合比率 ・固定比率 ・労働装備率	推定問題 貸借対照表と損益計算書の一部推定 ・総資本営業利益率 ・自己資本当期純利益率 ・完成工事高総利益率 ・完成工事高経常利益率 ・資本集約度
第4問	生産性分析 ・労働装備率 ・設備投資効率 ・付加価値率 ・資本集約度	損益分岐点分析 ・損益分岐点売上高 ・損益分岐点比率(安全余裕率) ・変動費と固定費の区分 など	損益分岐点分析 ・損益分岐点売上高 ・損益分岐点比率(安全余裕率) ・変動費と固定費の区分 など
第5問	各種比率計算を中心とした総合問題 ・経営資本営業利益率 ・未成工事収支比率 ・純支払利息比率		
	・自己資本当期純利益率	・完成工事高キャッシュ・フロー率	・流動負債比率
	・受取勘定滞留月数	・借入金依存度	・有利子負債月商倍率
	・支払勘定回転率	・労働装備率など	

なぜ、こう予想した？

第1問では、「財務会計および管理会計と財務分析の関係について」、「実数分析について」等の総論からの出題と、収益性分析・安全性分析などの目的別財務分析から出題されています。また1題のみの出題のときと2題のときとがありますが、2題が出題された時でも内容に関連があることが多く、実質的には1論点の出題となっていることも多いようです。

上の表では、総論分野と目的別財務分析の中から、最近の試験において出題されていないものを中心に予想しました。

第2問では、毎回空所補充問題が出題されますが、収益性分析（過去2回）と安全性分析（過去3回）と比較的多く出ています。また、財務分析の手法についても、過去2回と比較的出題頻度が高いようです。そこで、最近出題されていない収益性分析、財務分析の手法、資金変動性分析などの出題可能性が高い状況といえます。また、余裕のある方には、安全性分析、活動性分析も見えておいていただければと思います。

第3問は、毎回、貸借対照表・損益計算書の一部推定問題が出題されていますので、今回もこの傾向は続くと思われます。内容的には月数(月商倍率)、利益率、回転率、さらには従業員数と関連する資本集約度や労働装備率に関連する所が多く出題される傾向にありますが、問題を解き慣れておくことが重要です。

第4問は、過去を振り返ると付加価値に関する生産性分析か、損益分岐点分析のどちらかが出題されている状況です。前回は損益分岐点分析に関する出題がされているので、今回は生産性分析の方が可能性が高いでしょう。

合格目指して
ラストスパートだ！

第5問は総合問題です。予想に挙げた比率を中心に高得点を得られる様に、十分な対策をしておきましょう。全体的な対策としては、毎回出題されている特殊比率を中心に学習しておくことで、たとえ見慣れない特殊比率が出題されたとしても、応用的対応ができます。

